

立命館史学会報告要旨

立命館大学博士課程前期課程文学研究科考古学文化遺産専修1回 福島大樹

今回報告する天野山金剛寺遺跡は鎌倉時代後半から南北朝時代に栄えた寺院遺跡である。これまで開発行為に伴い多くの発掘調査成果が蓄積してきた。しかし、これらの調査は現在の中心伽藍から離れた調査地が主で、境内内の調査は僅かにあるものの、境内周辺部での発掘調査はほとんどされていない。特に境内の山側に当たる南西部は絵図資料では多くの塔頭や平坦面の存在が確認されているものの、発掘調査で実際にどのような遺構があるのかが不明な点が多い。そこで、立命館大学FDゼミは、2025年度に中心伽藍の北西部の塔頭の存在が想定される平坦面で発掘調査を行い、その様相を明らかにすることができた。本報告は既往の調査成果を踏まえたうえで今回の発掘調査で明らかになった天野山金剛寺遺跡について報告する。